

終末への心構え

●はじめに

『備えあれば、憂いなし』と言われる。天災はいつ起こるか分からない。しかし、いつその時が来ても大丈夫なように、日ごろから備えをする事が重要であると言われる。何故なら、日ごろの備えができていないか、否かがいざという時に大きな違いをもたらすからである。同じように、聖書は私達に、いつか分からないが、必ず終末を迎えるという事と、それに対する備えを日ごろがからするように教えている。私達は、聖書を通して、終末に対する備えを学ぼう。

●今日の聖書箇所を理解する為に・・・マタイ 24 章、25 章前半について・・・

①終末時の前兆について、教えている。(24:1～28)

戦争、ききん、地震、人間関係の崩壊、クリスチャンへの迫害、偽キリスト。

②主イエスは、もう一度地上に来られ、歴史は終末を迎える。(24:29～31)

③花婿を迎える賢い乙女と愚かな乙女の譬えを通して、備えができていない者と、そうでない者との決定的な差がでてくる事を教え、私たちがいつ終末を迎えても良い備えをするように教えられている。(25:1～13)

●参考① 初臨のキリストについての預言/オックスフォード大学・リドン教授

「主イエスの初臨(2000年前に地上に来られた時)についての預言は、旧約聖書に 332 あり、それがことごとく成就した。」と言っている。

- ・キリストの復活・・・1000 年前/ダビデ・・・詩篇 16:10/使徒 2:25～
- ・キリストの受難・・・700 年前/イザヤ・・・イザヤ 55 章/ヨハネ 19 章など
- ・ベツレヘムでの誕生・・・700 年前/ミカ・・・ミカ 5:2/マタイ 2:6

●参考② 1タラントとは、成人男性 6000 日(約 20 年分)の給与。

●聖書の約束

今は恵みの時、今は救いの日です。第 2 コリント 6 章 2 節

●本日の聖書箇所 ・マタイ 25:14～30(新改訳)

25:14 天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。25:15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。25:16 五タラント預かった者は、すぐに行き、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。25:17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。25:18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。25:19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。25:20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』25:21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』25:22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』25:23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』25:24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。25:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』25:26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。25:27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』25:29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。25:30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ざしりするのです。

◆本日の説教のポイント

①“今”というタラント(機会)を最大限に活かそう。

人は、必ず終末を迎える。当たり前の事だが、いつの間にか私達はその事を忘れていくかのように生きている事がある。だからこそ、聖書は、その事を忘れずに、心備えをするようにと繰り返し教えている。終末に備えた具体的な備えとして、委ねられたタラント(能力・企画)を神が喜ばれる事の為に最大限に活かす生き方をするようにと聖書は教える。

NHKの番組の中で、東日本大震災等を通して、近しい人との地上での別れを経験された方、その事を身近に感じられた方々の多くは、もし、今日が最後と分かっていたら、伝えておきたかった言葉があったという。「ごめんなさい。」「ありがとう。」「愛している。」「…日ごろから心にあつたのだが、ついつい「また今度でいいか」と先延ばしにしてきてしまった事を反省し、心に思った時には、“今”伝えたいという事であった。

誰も“明日”という日がある事は保証できない。だからこそ、“今”というタラント(機会)を活かして、親しい人に大切な言葉を語りかける者となろう。また、神から委ねられている様々なタラント(財産、時間、能力)を用いて、愛をあらわす者となろう。

②“今”委ねられているものを感謝しよう。

1 タラントを預かった人の悪い特徴は、約 20 年分の給与に相当する大きな財産任せてくれた主人に対して感謝の気持ちが全く、怠っていた事にある。

私達は、無いものではなく、今、自分に委ねられている事柄(衣、食、住、健康、仕事、家族、友人、時間)に感謝する者となろう。

感謝の心をもって、今委ねられているものを見渡すとき、実に沢山の事柄が自分に委ねられている事を知る事ができる。そして、それらのものを活用する事ができる者となる。「私には、時間がない、お金がない、能力がない、……がない。」と言い続ける人は、結果的に自分に委ねられているものの大きさに気がつかず、不満ばかりがつのり、折角委ねられているものを有意義に活用できずに終わってしまう。私達は、無いものではなく、自分に委ねられている様々な事柄に感謝し、それらを活用するものとなろう。

◆本日の説教のポイント

①“今”というタラント(機会)を最大限に活かそう。

人は、必ず終末を迎える。当たり前の事だが、いつの間にか私達はその事を忘れていくかのように生きている事がある。だからこそ、聖書は、その事を忘れずに、心備えをするようにと繰り返し教えている。終末に備えた具体的な備えとして、委ねられたタラント(能力・企画)を神が喜ばれる事の為に最大限に活かす生き方をするようにと聖書は教える。

NHKの番組の中で、東日本大震災等を通して、近しい人との地上での別れを経験された方、その事を身近に感じられた方々の多くは、もし、今日が最後と分かっていたら、伝えておきたかった言葉があったという。「ごめんなさい。」「ありがとう。」「愛している。」「…日ごろから心にあつたのだが、ついつい「また今度でいいか」と先延ばしにしてきてしまった事を反省し、心に思った時には、“今”伝えたいという事であった。

誰も“明日”という日がある事は保証できない。だからこそ、“今”というタラント(機会)を活かして、親しい人に大切な言葉を語りかける者となろう。また、神から委ねられている様々なタラント(財産、時間、能力)を用いて、愛をあらわす者となろう。

②“今”委ねられているものを感謝しよう。

1 タラントを預かった人の悪い特徴は、約 20 年分の給与に相当する大きな財産任せてくれた主人に対して感謝の気持ちが全く、怠っていた事にある。私達は、無いものではなく、今、自分に委ねられている事柄(衣、食、住、健康、仕事、家族、友人、時間)に感謝する者となろう。

感謝の心をもって、今委ねられているものを見渡すとき、実に沢山の事柄が自分に委ねられている事を知る事ができる。そして、それらのものを活用する事ができる者となる。「私には、時間がない、お金がない、能力がない、……がない。」と言い続ける人は、結果的に自分に委ねられているものの大きさに気がつかず、不満ばかりがつのり、折角委ねられているものを有意義に活用できずに終わってしまう。私達は、無いものではなく、自分に委ねられている様々な事柄に感謝し、それらを活用するものとなろう。